

導入事例：アドバンテッジパートナーズ、ファンドの投資家向け情報共有プラットフォームにイントラリンクスを採用

株式会社アドバンテッジパートナーズ(以下、AP)は、同社がサービスを提供するファンドの投資家向け情報共有プラットフォームとして、イントラリンクスが提供するファンドレポートサービスを導入しました。これまで利用していた投資家ポータルのような課題を解消し、分散していた情報を集約することで、情報管理にかかっていた負荷を軽減するとともに、投資家との円滑なコミュニケーションを図ることのできるプラットフォームを実現しています。

課題

APは1997年に国内で最初のバイアウト専用ファンドを立ち上げたPEファンド業界のバイオニア企業です。グループ全体での投資件数は2020年末時点で累計95件に上り、毎年3~4件の投資を実行しています。グループ全体での運用資産残高は、累計で約5,500億円超、現行ファンド合計で約2,200億円超となります。近年は経営支援を伴う上場企業へのマイノリティ投資を行うファンドによる投資も拡大させているほか、香港・上海・シンガポールに展開するオフィスを通じてアジア地域でのバイアウトファンドの投資も実行しています。そんなAPでは、ファンドの情報提供・管理を目的として2013年に投資家ポータルを導入し、運用してきました。しかし、同社のパートナー/チーフ・アドミニストレーティブ・オフィサーの馬場 勝也氏によると、従来の投資家ポータルには多くの課題があったといいます。

「当初は別の投資家ポータルを導入しており、それまでのメールベースの情報共有から切り替えていったものの、導入した投資家ポータルは日本語対応やサポート、機能・使い勝手など様々な面で満足のいくレベルにありませんでした。それに加え、アップグレードの実施によって運用コストが跳ね上がり、次第に不満が高まってきました。また、海外投資家向けに外部のファンドアドミニストレーターが提供するポータルを利用したり、小規模に開始したファンドではポータルを使わずにメールベースで情報共有を行ったりと、ファンド運営に必要な情報が各所に分散していることが大きな課題でした」(馬場氏)

ADVANTAGE PARTNERS

お客様会社概要

- 社名：株式会社アドバンテッジパートナーズ
- 設立：1997年10月
- 業種：プライベート・エクイティ・ファンド(バイアウト・ファンド)

課題

- 2013年に導入した投資家ポータルの機能・使い勝手・コストに不満があった
- 投資家ポータル以外にも情報が分散し、情報を探するのに時間がかかっていた
- ファンド間の情報管理が複雑で、運用担当メンバーの業務負荷が高かった

導入効果

- レポート業務プロセスが集約され効率化を図ることができた
- 使い勝手の良さからファンドだけでなく投資家にもストレスなく受け入れてもらうことができ、スムーズな移行ができた
- 情報管理が容易になって投資家との円滑なコミュニケーションが図れるようになった

ソリューション

このような課題を解決するために、APは全ファンドの情報を集約できる情報共有プラットフォームの導入再検討を実施。2018年に複数のソリューションを候補に挙げて比較検討した結果、イントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームを導入することにしました。馬場氏は、イントラリンクスの採用理由について次のように話します。

「イントラリンクスのプラットフォームは、当社でも従来からファンドレイズやディールなどで利用実績がありました。また、金融機関で多数の利用実績があり、ファイアウォールのホワイトリストにあらかじめ登録されていることも大きな利点です。業界のデファクトスタンダードとして他社でも多く採用されているので、投資家もとくに制約を受けずに利用を開始することができます。さらに、権限設定やセキュリティの高さ、サポートなども申し分のないレベルだったこともあり、これらが決め手となってイントラリンクスを当社の新しい情報共有プラットフォームとして導入することにしました。」(馬場氏)

APがイントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームを導入したのは、2020年5月のこと。2020年内には従来の投資家ポータルや外部のファンドアドミニストレーターが提供するポータルからの情報集約を進め、2021年からはイントラリンクスのサービスに一本化し投資家向けの情報提供を開始しています。

導入効果

イントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームの導入により、APでは様々な導入効果を実感しているそうです。イントラリンクスのサービス運用を担当する同社ヴァイス・プレジデントのケーシー・キースタ氏は、情報管理の複雑さが解消されたことが一番の効果だと言います。

「これまでは既存の投資家ポータルなどあちこちに情報が分散していたため、経験の浅いメンバーは必要な情報を探し出して閲覧するまでに時間と手間がかかっていました。それに対し、情報がイントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームへ一元的に集約されたことにより、情報管理が容易になって円滑なコミュニケーションが図ることができています。また、外部のファンドアドミニストレーターが提供するポータルでは複数段階のID/パスワード認証が求められたり、必要な情報のアップロードを依頼できる時間が決まっていたりするなど使い勝手の面で問題がありましたが、こうした部分も解消されました。」(キースタ氏)

移行した当初は、ファンドの投資家から使い方に関する問い合わせがあることも予想していたそうですが、実際には問い合わせはほとんどなく、スムーズ

に運用できているとのこと。このような問い合わせ対応の業務負荷が軽減したことも大きな導入効果だと見ているそうです。

さらに、投資家へキャピタルコール通知書を作成・送付するアカウントティング部隊においても、イントラリンクスのレポート配信ツールである「Filesplit」を駆使することにより、キャピタルコール通知書の複数投資家への自動配布が可能となり、誤送信リスクを軽減し、効率的な一斉配信ができるようになったと言います。

今後の展開

APがサービスを提供するファンドでは、引き続き活発な投資活動が続いており、既存ファンドに関する高頻度での情報提供と継続的なファンドレイズ活動が見込まれていると言います。また、パンデミックがグローバルに長期化する中で、オンラインでの情報提供の質と量を高める必要がますます高まると同時に、社内の業務プロセスと投資家含めた幅広い社外の関係者に対する情報提供をシームレスに統合するニーズが今後高まるものと考えているそうです。こうした観点から、業務インフラ全般の継続的な改善について多面的な検討を進めていると言います。

「当社にとって情報共有プラットフォームとは、“書庫”というよりも投資家とのコミュニケーションの場であることが重要だと考えています。現在は静的なドキュメントの情報共有のためにイントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームを利用していますが、将来的には動画のストリーミング配信といったオンデマンドなコンテンツも含め、オウンドメディアとして機能する情報共有プラットフォームを構築していくことが一つの方向性だと考えており、それを目指した取り組みを進めていく予定です。」(馬場氏)

APが導入したイントラリンクスのサービスは、ファンドの情報共有を支えるプラットフォームとして、親会社であるファンドアドミニストレーションの世界最大手であるSS&Cテクノロジーズとの今後の連携を含めて、さらに発展していくことが期待されています。

お客様の声

「業界のデファクトスタンダードであるイントラリンクスのファンドレポーティングプラットフォームは、情報共有プラットフォームとして最適の選択でした。」(アドバンテッジパートナーズ パートナー チーフ・アドミニストレーティブ・オフィサー 馬場 勝也氏)

イントラリンクスについて

イントラリンクスは、オルタナティブ投資、グローバルバンキング、ディールメイキングおよび資本市場コミュニティ分野における金融テクノロジーのリーディングプロバイダーです。バーチャルデータルームのパイオニアとして、イントラリンクスは、M&Aやファンドレイズ、投資家レポートといった戦略的イニシアティブにおいて情報の交換を促進し、安全性を確保します。20年以上の実績を通してイントラリンクスのプラットフォームでは累計35兆米ドル相当以上の金融取引が行われています。詳細は、www.intralinks.com/jpをご覧ください。

イントラリンクス

東京都千代田区紀尾井町4-1
ニューオータニガーデンコート10F
Tel: 03-4510-7900
Email: japan@intralinks.com